

清掃活動は何のためにする？

～自分の頭で考え行動する子どもを育てる～

清掃活動の時間は、ほとんどの学校に設定されていると思います。

教師や子どもたちは何の疑いもなく一生懸命にやっていると思いますが、もし子どもたちから「なぜ私たちが清掃をやらなければならないんですか」という質問をされたら、あなたはどうか答えますか。「自分たちが使った場所は、自分たちできれいにするのは当たり前だからです。それに、校舎がきれいだと気持ちよく学習できるでしょ」と答えますか。もし子どもたちが、「それなら職員室は先生方がやってください。私たちは使っていないので」などと言ったら、どう答えますか。

私の答えは簡単です。「清掃はみんなの自主性を育てるためにやるんだよ」これだけです。自分たちが使った場所かどうかは関係ありません。清掃は目的をもった教育活動です。「きれいにするため」は究極の目的ではありません。目的は「自分の頭で考え行動する子どもを育てる」ということです。そう考えると、日々の清掃活動は一変します。

例えば、そのために行う方法として『無言清掃』があります。なぜ『無言』が「自主性を育てる」ことになるのか。『無言』とは単に静かに掃除させることが目的ではありません。精神修養でもありません。それは「自分の頭で考えて行動する」ための方法なのです。『無言』にしないと、子どもたちは話に夢中になって手が動かなくなります。あるいは教員やリーダー格の子どもがどんどん指示を出して、他の人はそれに従うだけになりかねません。これでは「自主性」は育ちません。ところが誰も口を利か

なければ「自分で考えて行動する」しかありません。

「自主性」が育ってくれば、結果として自ずと清掃場所はきれいになります。それは後からついてくるものです。目的はあくまでも「自ら考え行動する子どもを育てる」ことなのです。

さて、ここから先は、私の体験談になります。

私は、とある中学校の教頭時代に、校舎周りの清掃指導の担当になりました。そこは中学1年生の分担でした。教頭になったばかりの頃、体験的な活動の目的は生徒の自主性や自己肯定感を育てるためだということを学び、清掃活動も同じではないかと思いました。そこで私はそれを実践してみたいと思い、『無言清掃』に取り組んだのです。

清掃の初日、まだ初々しい1年生が、集合場所に集まりました。子どもたちには事前に「清掃道具は持ってこなくてよい。そのかわり鉛筆を持ってきなさい」と指示しておきました。怪訝そうな顔で集まった生徒たちに、私は言いました。「今日皆さんは掃除をしなくていいです。その代わりに私がこれから配る清掃場所の紙を持って、それぞれ汚れている場所を探し、鉛筆で印を付けてきてください」

清掃時間が終わり、各々紙を手に戻ってきた生徒に結果を発表してもらいました。当たり前ですが、みな同じような場所が汚れていると言います。私は「そうですか、よくわかりました。では、明日はまず、どの場所を掃除したらよいでしょうか？」と、子どもたちが自らの頭で考えるように促しました。すると子どもたちは異口同音に「一番汚れている個所から」と言いました。自主性発揮です。

「ところで約束事が2つあります。1つは『清掃中は口を利かないこと』、もう1つは『自分の頭で考えて行動すること』以上です」。もちろんその理

由もしっかりと伝えました。短い活動時間なのであれもこれもと欲張りません。その代わり徹底して一つのことをやり抜く、それがコツだと思います。

翌日から『無言清掃』が始まりました。無言ですから、私自身も全く口を開きません。教師は自分自身も清掃しながら、生徒の様子をよく観察することが仕事です。口を利いている子どもたちがいてもその時には注意しません。そこで注意してしまったら『無言清掃』でなくなりますので。

そして、極めて大事なのが、清掃後の反省会です。教師側からするとそれは評価の時間です。反省会では、生徒に2つの約束が守れたかどうかだけを言ってもらいます。生徒は、いろいろな反省を言いたがりますが、目的が曖昧になることを避けるために2つだけに絞ります。慣れてくると、生徒は「今日はおしゃべりはしなかったけれど、自分の頭で考えて行動することができなかつたです。それは…だったからです」などと言えるようになります。

私からは「今日、Aさんは自分の判断でちりとりを初めから持ってきていましたね。おかげでみんなスムーズにゴミを片付けることができました。そういう行動を“自分の頭で考える”と言うんですよ」と、具体的な評価を、毎回繰り返し行いました。教師も2つの約束に絞って評価することが大事です。

このようなやり方が浸透していくのには、当然、時間がかかります。しかし、私は粘り強く指導を繰り返しました。すると、1学期の終わりごろになると、徐々にこのやり方を理解する生徒が表れてきました。それらの生徒は、今日の清掃場所の状況を予め把握し、どの道具を持っていったら効率よく掃除ができるか考え、黙々と掃除をしていました。またそういう生徒は、反省会の時に、自身の反省ばかり

でなく班全体の動きを「自ら考え行動する」という観点から評価できるようになっていきました。そうすると、教師が言うことは自ずと少なくなります。これが生徒の「自主性の育ち」です。

そして2学期半ばにもなると、ほとんどの生徒が、自分の頭で考えながら黙々と効率的に掃除をするようになっていきました。私が出張する日には、「いつものように掃除をして、しっかりと反省をしておきます。心配しないで出かけてください」と言ってくれるようになりました。これでもう大丈夫だと安心して出かけることができました。

毎日の清掃時間は、わずか15分程度ですが、1年間積み重ねると40時間にもなります。この時間を有効活用しない手はありません。

また、当時は、私一個人が行っただけでしたが、それでも子どもたちのすばらしい「育ち」が見られました。これをもし全校体制で行ったとしたら、生徒の「自主性＝自ら考え行動する力」がどれほど育つことでしょう。学校で行う活動はすべて目的を持った教育活動です。

すべての活動にこのような目的と方法をもって、全校体制で取り組めば、子どもたちは驚くほど伸びます。学校教育目標の達成も間違いなしです。私はそう確信しています。

市川三郷町教育長 渡井 渡

